

会 議 録				
平成27年度第5回 社会教育委員の会議	日 時	平成27年9月2日(水) 午前9時30分～11時	場 所	小金井市第二庁舎 6階602会議室
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課			
出 席 者	委 員	中村議長、原嶋副議長 樋口、樹、本多、石田、倉持、小山田、各委員		
	その他			
	事務局	石原生涯学習課長、小堀生涯学習係長、伊東生涯学習係主事		
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 協議事項				
(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画(素案のまとめ)について				
(2) 第27期社会教育委員について(まとめ)				
(中村議長)				
おはようございます。それでは会議を開催させていただきます。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今期で最後の会議ということで、第5回社会教育委員の会議を開催させていただきます。まず、本多委員が科学の祭典の準備でちょっと遅れるということです。では配布資料の説明を事務局の方から。				
(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画(素案のまとめ)について				
(石原生涯学習課長)				
まず次第と、第3次生涯学習推進計画に係る重点プロジェクトなんですが、こちらは私の視点で作成したものなので、たたき台として使用してもらえればと思います。また、次期委員の構成をつけさせていただきました。配布資料は以上です。				
それと、本日の会議は前回の会議で今期のまとめというのを会議録で残せていないので、最後に27期のまとめの言葉をいただければと思います。また本日この会場が11時までとなっておりますので、進行の方ご協力いただきたいと思います。また、「(1)第3次小金井市生涯学習推進計画(素案のまとめ)について」につきましても、事務局の希望といたしましては、第3次生涯学習推進計画の、骨子のところまではまとまってきたらと思っておりますが、第2次とかたちを変えて、重点プロジェクトを				

選定して、そのほかの事業を資料としてまとめるような形式にするのか、それとも第2次を踏襲するようなかたちで、全事業を網羅的に扱っていくのか、今後の方向性も示していただければありがたいと思っています。以上です。

(中村議長)

それにあたって、この「第3次小金井市生涯学習推進計画重点プロジェクト(案)」をつくった背景を。

(石原生涯学習課長)

委員の方から一つの示唆として、こういう網羅的なものではなく、市の上位計画である基本構想でもとっている形式なんですけど、重点の事業を抜き出して、それについて詳しい説明であるとか、数値目標であるとか、年次別の計画を出したりとか手厚く扱って、重点プロジェクトから外れた施策については簡単な説明にとどめるというような形式を取っている計画もあるので、重点プロジェクトとして選定するならば、今長期計画の審議会でも生涯学習分野として取り上げられているものを中心に、重点プロジェクトとして選定したものをたたき台として作成しました。

(中村議長)

事務局としては、このような重点プロジェクトをやっていきたいという提案ですね。

(石原生涯学習課長)

第2次は総花的との評価をいただいていたので、メリハリをつける意味では有効ではないかと思っています。付け加えるのであれば、3次を評価する際にも、評価するところを絞りやすいというメリットもあるかと思っています。

(中村議長)

13の項目を挙げられた理由はあるのですか。

(石原生涯学習課長)

特にいくつまで挙げようとしてつくった訳ではなく、後期計画で取り上げられているものを中心に選定したところ、このような数になったというところです。

(中村議長)

今、石原課長から説明がありましたが、重点プロジェクト(案)ではありますけど、こういうかたちで出しているかたちでやっていくのか、あるいは第2次生涯学習推進計画のように、重点プロジェクトなどは厭わずにというかたちでいくのか、各委員からご意見はありますか。いきなりで恐縮ですが。

(倉持委員)

そういうやり方もあると言った気がするんですけど、いろいろな自治体が生涯学習計画を建てる中で、地域の特性や地域の課題というものをを焦点化するということは、市の特徴なり課題を市民と行政が共有すると言う意味でも良いと思うので賛同します。

一方で、重点プロジェクトっていう建て方がされているが、「重点課題」として建て

るか、「重点プロジェクト」として建てるかによって性格が変わってくるのではないかと
思っていて、「プロジェクト」の方がより責任があるというか、進捗状況や今後の社
会教育委員はその進捗状況を見守って、点検評価する作業を責任をもって行うという。
「重点課題」というと、それよりももう少し課題として浮き立たせた、というだからと
いって放置してもいいというものではないが、多少ニュアンスは変わってくるのでは
ないかと思う。

それから、1. 2. 3は「重点プロジェクトになりそう」、4. 5. 6. 7も、重点
プロジェクトになるのだ、という理解でよろしいのでしょうか。

(石原生涯学習課長)

これは書きっぷりの違いだけで、「重点プロジェクト(案)」て書いてあれば全部該
当します。

(倉持委員)

小金井市の後期の基本計画において、「重点プロジェクト」という名称で「生涯学習
情報の発信」や「放課後子ども教室」などが位置づけられそうなのか。

(石原生涯学習課長)

そうです。

(倉持委員)

わかりました。そういう意味では10. 11. 12. 13は生涯学習推進計画独自の
視点の、重点プロジェクトなのではないかということですね。このあたりは次の期
の社会教育委員が絞るのか。

(石原生涯学習課長)

これは生涯学習部の事業しか入っていないので、これに協力してもらえる学校教育
部であったり、市長部局であったりなどのすり合わせの中で、後期計画に出すのは構
われないが、生涯学習推進計画の中にまで取り上げられるのは難しいという話が出た場
合には、ランクが落ちたりする可能性があるかもしれない。

(倉持委員)

今の期の中に意見を言い合っておいて、次期にも少し投げながらというのも良いと
思いますし、私は行政の中で横断するプロジェクトは意味があると思うので、そうい
う意味では生涯学習推進計画においても、そういう要素があっても良いと思う。長く
なったが以上です。

(中村議長)

ありがとうございます。他の委員の方からは何かありますか。今、倉持委員から「重
点プロジェクト」について意見をいただきましたが、選定理由のところにもありますが、
事務局の方は後期基本計画を意識しながら作り込んだ感じがする。

(石田委員)

もしプロジェクトが取り上げられれば、第3次の中に掲載されるのか。

(石原生涯学習課長)

そうです。

(石田委員)

載る位置としてはどのあたりか。

(石原生涯学習課長)

載る位置は、作り方をどうするかわからないが、「第4章施策の展開」みたいなところから全部の評価が第2次では始まっているが、第4章のところを重点プロジェクトみたいなかたちにして、重点プロジェクトから外れた表については、一覽的に資料的に載せるのはどうかと。作りこむにあたって冒頭に重点プロジェクトに触れる必要は出てくるかと思う。

(樹委員)

確認ですが重点プロジェクトの中に、それにふさわしい施策の内容が表示されるということですか。

(石原生涯学習課長)

5年後にはこのくらいまで人数を増やしていきたいとか、どういう風に増やしていくのかというように、詳細な道しるべというかたちで入れていく。

(樹委員)

わかりました。2次の羅列していくというかたちだと何が大事なのか、なにをやりたいのかというのがちょっと全部同じように並んでいるので、いいのかなというように思います。ただ2番の「放課後子ども教室」が重点プロジェクトとしてなっているが、ここは表現を変えていただいて、もう少し広い、「青少年の居場所作り」みたいなというように発展させた方がいいのではないか。「放課後子ども教室」自体も、今後例えば中学生に広げていこうとか、いろんな可能性を模索しているところであるので、放課後子ども教室だけが、子どもたちの健全育成のために大事というわけでもないし、きたまちセンターで取り組んでいる青少年の居場所作りであるとか、そういうのも含めて考えていくのはどうかと思いました。

(中村議長)

ありがとうございます。他にご意見はありますか。

(樋口委員)

重点プロジェクトみたいにとりあげるかたちは良いと思う。実際私が第2次を読んだり、触れたときに、あまりにも範囲が広くてなかなか読み取れなかった。

(小山田委員)

私も同意見で、重点プロジェクトを取り上げるというのは賛成で、先ほど樹委員がおっしゃった2番の放課後子ども教室のところも、「青少年の居場所作りの充実」とい

うようなという意見に賛成します。

(原嶋副議長)

倉持委員がおっしゃった、「課題」と「プロジェクト」のニュアンスについても同様に思っていて、プロジェクトといった限りは、PDCAじゃないけれども腹を据えてやっついていかないと、責任が問われていく。評価されるわけなので。自分達に評価を課せられたという意気込みを感じますし、樋口委員がおっしゃったように、何をやりたいかというのが明確化されるかと思います。

(中村議長)

ありがとうございます。今、原嶋副議長がおっしゃるにやはり重点プロジェクトとうたうからには、PDCAサイクルじゃないですけども、単に文言として捉えるのではなく、実際の行動が入ってくるという話である。そういうことで、次の期の社会教育委員の方にやっていただくことはかなり多くはなるが、みなさんの意見をまとめさせていただくと、この重点プロジェクトについては賛成ということ。全体の総意として、この重点プロジェクトについては同意をいただいたということによろしいかと。

中身については樹委員から文言についてご意見がありましたので、多少修正の必要はあるかと思います。

(石原生涯学習課長)

パブリックコメントのなかでも、こういう事業が抜けているが重点プロジェクトとして入れるべきではないかといったような意見もあるかと思うので、みなさんから合意いただけるように選定していく必要があると思う。

(倉持委員)

数にしろもう少し練っていく必要はあるかと思う。例えば13番の「計画の推進のために」というのはプロジェクト名としては抽象的過ぎる。1番に書かれている内容は、情報発信というよりは計画の推進の内容にあたるのではないかと。1番はどちらかというと生涯学習にアクセスしやすくするための広報誌だったり、そのような評価だったりする。この辺の整理をするとか、12番の「歴史を親しむ」は郷土の歴史ですよ。郷土の歴史に親しみ愛着を持つというものかと思うのですが、郷土誌に関わる事業に関することで、具体的に事業と連動して考えるということ、11番はすごく大事な提案だと思うのですが、自主的な活動をしている団体が多い小金井市の特徴をどう活かすか、団体支援などにつながっていくのかなと思うが、11番は抽象的ではあるがテーマとしては確かに大事なものだと思う。具体的な事業につなげていくというような、もう少し今後、今の委員と次期の委員とで意見を出し合いながら、まとめあげていくというのが良いと思いました。

(中村議長)

ありがとうございます。私も重点プロジェクトの中でかなり具体的な施策、例えば

「人権教育の推進」などはっきり具体的に述べられているかと思えば、11番の「学びを継承するための仕組みづくり」のところのような、概念的なものと混在しているというような、そこは倉持委員がおっしゃったように具体的なかたちに落とし込むようなかたちで、もう一度精査する必要があるのではないかと思った。

申し訳ないがこの場ではすぐにきめられないことなので、次期の社会教育委員にお願いするというかたちでよろしいか。私の個人的な感想を申し上げますと、継承と発展という立場からして9番の「生涯学習センター機能の整備」というのが重点プロジェクトに入っているのは非常にありがたいと思っている。つけくわえるとすれば、「地域教育力の支援」ということで、コミュニティスクールの実現に向けてを重点プロジェクトに入れるかどうかは行政の判断もあるかと思うが、入れていただけるとありがたい。地域教育力の支援というのは、今後重要なテーマだと思うので、入れていただけるとありがたいという個人的な意見です。他にご意見がなければ、次期で重点プロジェクトに取り組んでもらうというかたちでご異議ないか。あわせて、施策に体系、施策の方向というところまでは骨子として明文化されているが、具体的な事業を事業仕分けではないが、どの事業がどの体系に含まれるかというようになっていくのではないかと思う。

(2) 第27期社会教育委員について (まとめ)

(中村議長)

前期の社会教育委員の会議においても、最後の会議の場で各委員から感想をおっしゃっていただいて、総括をする。今後の引継ぎを含めて、この前の会議でも話が出たかと思うが、ご意見があればおっしゃっていただければと思うが、お願いできますか。

(倉持委員)

大変お世話になりました。

社会教育委員の方々は地域で活動されている人がいるので、地域の学びを支えている、まさに社会教育だと思った。第3次生涯学習計画について、よろしくお願ひしたいというのと、ここまでの議論を尊重しながら、また新しい意見を入れて、図書館や公民館、郷土の歴史なども盛り込んだ、新たな発展した計画になれば。また生涯学習センター機能の充実に向けて取り組んでいただきたい。

(小山田委員)

今期が社会教育委員1期目だったが、社会教育委員になってすぐに関東甲信越静社会教育研究大会の参加のために日光へ行き、また東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第5ブロックの研修会もあり、社会教育委員の広がりを感じた。来期に向けて、今までの意見を引き継ぎつつ、小金井に根付いた第3次生涯学習推進計画をまとめあげたい。

(石田委員)

社会教育委員は1期目だったが、ようやく社会教育委員というものがわかりかけている。第3次生涯学習推進計画は、第2次生涯学習推進計画よりももっと薄くわかりやすい、ダイジェスト版を全戸配布できたらと思う。

(原嶋副議長)

出欠について、会議開催時間を例えば夜にするなど、委員が出席しやすい工夫が必要。第3次生涯学習推進計画の重点プロジェクトについて、責任をもって取り組んでいきたい。

(本多委員)

最初は戸惑うばかりであったが、所属している小金井市文化連盟や高齢者とのパイプ役に努めた。27期社会教育委員が今までやってきたことを掘り下げ、見直していただきたい。

(樋口委員)

PTAは年に3回集まる機会があり、今まで社会教育委員を務めていた方の発言はあまりなかったが、今回は第3次生涯学習推進計画に関わるアンケートをとるというきっかけもあり、PTAのなかでPRができた。

(樹委員)

第3次生涯学習推進計画に関わり、かたちになるものができて嬉しい。これから市民として生涯学習に携わっていきたい。放課後子どもプラン運営委員会も4年半務め、勉強させていただいた。

(中村議長)

第25期、26期社会教育委員は提言の提出などはあったが、大きなイベントは無かった。第27期社会教育委員は東京都市町村社会教育委員連絡協議会の第5ブロック研修会や第3次生涯学習推進計画もあり、プレッシャーを感じていた。新しい委員の方が入ってきてスムーズに入れるように引き継いでもらいたい。

以上